

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

昭和二十年十二月一日發行

月刊書道誌



創刊號

白鷺書道會

主 幹		顧問	
佐々木 秋峯	花澤 龍舟	大井川 幸隆	大井川 幸隆
三瓶 玄華	豊田 雲舟	村田 龍岱	村田 龍岱
佐伯 曉	大谷 玄華	津田 翠峯	津田 翠峯
佐川 竹	大谷 玄華	中世古 清孝	中世古 清孝
篠崎 青	大谷 玄華		
萩野 白	大谷 玄華		
山崎 白	大谷 玄華		
卷地 康	大谷 玄華		
菊本 康	大谷 玄華		
坂本 康	大谷 玄華		
桑名 康	大谷 玄華		
高木 康	大谷 玄華		
齋藤 康	大谷 玄華		
若松 康	大谷 玄華		

競書出品規定

△規定競書は次に發表してある文字を書くのであつて牛紙を懸に書き左側に地名(又は支那名)段級姓號を書きます

△隨意競書は字句書体共に隨意なものを書くのであつて書式其他は規定競書と同じです

規定 課題

〇十二月(萬戸擣衣聲)

〇一月(秋風吹不盡)

△切毎月末日嚴守

△競書に出品する清書は通信文や添削清書と同封せず封筒に(何月分競書)と書き〇切日に後れぬやう本會宛に送つて下さい

發 表

十二月分は二月號にて
一分分は三月號にて
發表いたします

- 本 會 會 則**
- 一、新規入會者は住所氏名年齢等を明記し左の會費及び入會金を添へ本會へ申込れたし
 - 一、會員は毎月一回末日迄左記の書式に必ず清書を出品すること
 - 一、清書は「規定」「隨意」の二種に分ち規定課題は毎月、それを發表す
 - 一、會員相互の向上を計るためこれを選考し毎月成績表を添附す
 - 一、競書の成績は師範、三段、二段、初段、一段、二段、三段、四段、五段とし新會員と雖も實力に應じ相當級に編入せしむ 但し一段以上は試験によるものとす
 - 一、試験により師範合格者は永久會費を免除し理事に推選し添削係を依頼す
 - 一、試験は年二回施行してその都度科目を發表す
- 會 費**
- 一、一ヶ月金五十錢(但し六ヶ月以上前納の事)
 - 一、新會員は以上會費の外入會金として一人金一圓也(會費六ヶ月の場合)計金四圓也を納入するものとす
- 支 部 設 置 規 定**
- 一、地方會員十名以上團結する時は支部を設置し支部長の會費は免除す
 - 一、支部長は會員名簿を作製しこれを本會に提出すること
 - 一、会費に際しては十名以上一名二十名以上二名の割にて會費を差引送金のこと

創刊を祝す

大井川 幸隆

這般 雅友佐々木秋峯君書道誌の發行を迂生に諮る。幼童初學の者より屠龍填龍の書士を網羅して誌上に驍を交はし會場に書を競はしむべく「白鷺」と題して爰に創刊を見たるは、斯界の爲め江湖と共に祝福に堪えざるなり。

軍閥、官僚政治を擅にして國民塗炭に沈淪し、人心稍々もすれば癡癡の極に陥らんとす。これを放任せん乎、人性情操を缺き同胞相親し拾收し得ざる亡國的民族に顛落するや必せり。これを矯め狂瀾を已例に歸へすの策は専ら政治家に俟つ處多しと雖も、各人の修養、各人の反省的趣向、これに伴はざれば期し能はざるなり。

古人は晴耕雨讀を唱するも、要は精勤の寸閑を智徳の琢磨に致すべきの謂にして、特にいづれの時代に於ても戦癡の中より自暴自棄の思潮擡頭するは歴史の示す處にして吾人の深く戒心すべき點なり。迂輩は日々事業の虜にされ、朝夕政治の爲に北馬南船し太だ遑なき境遇にあれども瞬刻を得れば古人の法帳を繙き寸時を得れば詩文を作讀し煙霞の癖よく疲勞を忘れ去るを幸福とす。然りと雖も一般青少年婦女子は參考書を得るに由なくその渴望や久し。然るに我國の書道雜誌は今春來悉皆癡刊となり、用紙の不足は當分之等書誌の再刊を許さざる實情にあり、幸ひにして迂生は若干の手持用紙あり、之れを「白鷺」の爲に供せんとす。

諸彦は職場、朋友、隣人を相誘ひ一人は一人の會員を募集し、本誌をして書道界の最高權威にして最大の讀者を擁するものたらしめ劫がくその誌齡を累ね相互の研究に見るべき進境あらんことを望む。

秋峰君に辭を乞はれ卒言を以て祝辭に替ふ。匆忙豪辭多謝

x x x

第一回 競書成績

(昭和二十年十一月分)

○印昇級次回より進級名を記入されたし
規定部と隨意は共通です

[illegible]

觀鵝小記

規定部

二段は伯君清楚にしてよく結り位あり。寛博なる氣節を養ひ線條に含蓄の出するを得。初段大谷君郷道昭の筆意を得線條に雅味ありて甚だ妙、少しく入り過ぎたるためか固くなるを覺ゆ。一級斎藤君沈着にして筆力あり愈々研讀を望む。

三級桑名君結体よく整ひ筆力出す技工多きは一考あられよ。○鈴木君老練の作、落款俗氣あり。

四級中田君直筆なる筆なるも然せざるためか二三幼稚なる線ありて形を失す。○小出君よく結より練熟の趣あるも還てそれが弊害となり習氣に感ず。貴下將來のため打聞來を考じては如何。

五級森田君古雅愛すべし、落款又甚だ妙審査子をして陶然たらしむ。○林君筆力出す益精練を望む。○吉岡君直筆なる作なるも用筆未だし、更に猛習あられよ。○渡邊君

◎會員大募集

△諸氏の御聲援を懇願致します

同 須賀町傷殘軍人療養所
茨城縣友部町傷殘軍人農技養成所
同 那珂郡村松村晴屋莊内
同 多賀町大久保字關口

佐川竹嵐
新崎春亮
引田香雲
荻田不堂
桑名秋邨

君も又前者に等し。○青木君筆よく伸びたり、用筆の工夫に努力せられよ。

隨意部

初段荻野君近來の傑作となす、空襲中も握まざる努力の賜に信ず、君の持意や思ふべし、落款の體字拙なるは惜しむべし。

一級斎藤君筆力紙面に徹す、淡墨のため驟か清彩を失す。

三級坂本君熱意紙面を壓し苦心の跡を見る、沈澁を失はぬ機心掛けられよ。

四級大津君一見調れたる如きも運筆輕重の味なく線又單調ならざるや。

五級林君直剣なる筆たど／＼しきは然でざるためか。

◎注意◎

一、毎月三日審査の豫定なれば、
切日(未日)まで遅れぬ様御
出書されし。

一、會員増加の見込にて間違か生
じやすいので地名及段級姓號
を必ず記入願ひます。

發刊の辭

佐々木秋峯

永い間の戦争も昭和二十年八月十五日を以て其の歴史的終幕を告げた。それに伴つて我等國民の目の前に展開された世の中の醜狀は餘りにもみじめな程の現實面の種々相でありました。併しこれ等の中にあつて吾人は常に直實なものへの恩慕と新しき道への開拓とを使命とし且つ人道への芽生えを只管願つて精進を續けて居た。

幸にこの度大井川先生の寛大なる御友情の下に全面的御援助を請ふところとなり更に先輩諸先生の御後援と會員諸君の熱聲を浴び茲に書道誌「白鷺」の誕生を見るに至りました。

もとより淺學愚疎にして諸氏の期待を損することは明らかなるものと存じますが盛り上る力と愈々自己の研鑽を高め期待を將來に荷ひ以て諸氏の指針たらんことを契ひたいと存じます
朝夕の一紙一管は清淨なる情熱として現れ自づと人格の陶冶人道の高揚を信じて疑はない。
諸君と共に手を把り合ひ斯道に邁進し聯か斯界に寄與することを念願して止まない。

創刊を祝す

菊池 康雄

今般佐々木秋峯先生の主宰される「白鷺書道會」より、書道誌「白鷺」が創刊されるに就て、門葉の一員として、心からお祝の言葉を捧ぐる次第であります。嘗ては、中央、地方に於て、數多の書道雜誌が發刊されて居りましたが、大東亞戰の進展と共に、次々とその姿を沒したものであります。終戦後他誌の發刊を見ざる中に、新しき理念と構想を以て、恩師佐々木先生の、並々ならぬ御盡力により、我が「白鷺」は雄々しく生れたのであります。

書を學ぶ上に、美育・實用・徳育・勞作等種々價値を得るのですが、最も、修養と實用の面にその本領を發揮する、でせう。古人は「書は心なり」と言つたのも理と思ひます。

私は先生の門葉に加へて戴いてから、まだ日も淺く、書の道の初心者であります。先生、諸先輩の御指導を仰ぎ、御叱咤を賜りて此の道に進み度いと考へて居ります。

世に「三號雜誌」なる語があります。私達の「白鷺」をこの仲間に入れたく無い、「白鷺」を健全に育生するも、三號にて終らざるも皆私達門下の努力次第であります。

私は門下各位と共に、健全なる發展を期して、創刊のお祝の言葉と致します。

編輯 便

新日本建設の第一歩を踏まんとする昭和二十一年の劈頭を期し左記により試筆會を催すことになりましてから奮つて會員諸君の参加を切望いたします

○日時 一月二日午前九時本部集合

○會場 平市第三國民學校

○會費 金參圓五十錢の豫定(中食付)

筆硯紙墨の用意は有りますが成可く筆は各自持参することがよいと思ひます

△尙當日の用意が有りますので出席の有無を十二月二十五日迄必ず御一報願ひます

以上 昇級試験募集 (今回は二級以下の募集は致しません)

○課題【仁風導和氣】

○用紙半紙堅書 ○出品料無料
○切十二月二十五日 ○發表二月號

△清書添削規定△

一、添削を受けるには一回に半紙三枚までとし返送用封筒(表記に自己の宛名を認め切手を貼つたもの)を必ず同封し月の二十日前に本部宛に送附されたい
二、添削清書は封筒に「添削」と必ず添書すること
右に反したるもの及び會員外の添削は御断りします

福島縣平市南町三〇
發行所 白鷺書道會

編輯人 佐々木 興三郎
發行所 福島縣平市一丁目二九
印刷所 平 活版所
發行所 福島縣平市南町三〇
發行所 白鷺書道會

十二月課題

萬戶擣
衣聲

一月課題

秋風吹
不盡